

私とRISTとの関わり

RIST幹事(前企画委員長)
熊本高等専門学校 教授

永田 正伸



少し曖昧な点があるかと思いますが、RIST設立30周年に当り、RISTと私との関わりを振り返って見たいと思います。

私のRISTとの関わりは、「熊本知能システム技術研究会」創立時の平成元年に遡ります。同年8月、私は富士電機(株)より熊本テクノポリス財団電子応用機械技術研究所(電応研)の연구원として着任したばかりでした。当時は、人工知能:AI(エキスパートシステム)、ニューラルネットワーク、ファジイ理論などによる特定の分野での知能システム技術の応用例が示され、一種のブームが起きつつある状況でした。

もちろん、着任早々の一연구원であった私には当時の詳しい状況については知る由もありませんが、実用化が近いと予想されたこれらの知能システム技術の地域企業への普及を目的として研究会設立の機運が高まり、当時の電応研の上村所長、古賀研究部長、および熊本テクノポリス財団の栗林総務部長(RIST初代事務局長)とともに、まだ名称も未定のまま熊本大学の上野教授に研究会の設立と初代会長への就任のお願いに同行させて頂きました。上野先生とは初対面でしたが、サスペンダー姿の上野先生から二つ返事で会長

就任をご快諾頂いたことを、大変印象深く覚えています。設立後、早速、上野会長の指示で、当時の知能システム技術に関する調査を行うこととなり、調査と報告書の作成を担当しました。(結果は「知能システム技術に関する調査」報告書として提出)

その後、平成5年に第3回技術セミナー「実用制御」の講師を務めさせて頂き、平成11年になると、RIST設立から10年が経過して企画スタッフの世代交代を見据えた企画委員会WGが発足し、そのメンバーを仰せつかり、手始めとしてイブニングスクールを担当することになりました。WGでの検討の結果、当時徐々に注目を集めていたPCベースのUNIX OSであるLinuxを取り上げる事となり、「Linux基礎編」として実施しました。その後、平成17~21年には企画委員として、また、平成27~29年には企画委員長として活動させて頂きました。

電応研およびRISTを通じて産学官連携に携わり、その実現には、人間関係を基礎とした息の長い取り組みが欠かせないと考えており、RISTの活動はその重要なプラットフォームとなります。これからも、是非このプラットフォームを有効にご活用頂きたいと思います。